

981116(TKYseisakushi)

参考資料 2

『東京オリンピック』制作、公開及び論争の年譜*

市川崑総監督体制以前

- 1960. 06 : 田畑政治 前組織委員会事務総長、黒沢明監督と折衝 (S. p. 503)
- 1960. : 黒沢明、松江助監督ローマ大会視察 (S. p. 503/T. p. 3)
- 1961. 夏 : 記録映画制作経費の見積もり5億5000万円が提示される (S. p. 503)
- 1962. 初頭 : 組織委員会職員2名ローマ大会経費精算の視察調査 :
制作配給経費は約2億円、収入約1億8000万円との報告 (S. p. 503)
黒沢監督引き下がり複数の監督を推薦 (S. p. 503)
夏 : 組織委員会制作予算2億9000万円で大蔵省に提示 (S. p. 503)
: 大蔵省制作経費として2億5千万円を認可 (S. p. 503)
- 1963. 春 : ニュース映画界参加申し入れ、東宝が制作辞退 (S. p. 503)
ニュース映画界全7社「社団法人東京オリンピック映画協会」設立 (S. p. 503)
- . 10 : 東京国際スポーツ大会(国立競技場)にてテスト撮影、実験映画の制作。室内競技会場の照明改善と競技場内の撮影場所の問題指摘 (S. p. 503)

市川崑総監督体制

- 1964. 01. 20 : 大映株式会社所属の市川崑氏が総監督に決定 (C. p. 151)
- . 05. 15 : 国立競技場初ロケハン(ロケーション・ハンティング) (C. p. 151)
- . 05. 18 : シナリオ作成開始(市川崑、和田夏十、白坂依志夫、谷川俊太郎) (C. p. 151/S. p. 504)
- . 05. 26 : オリンピック記録映画委員会設立 (S. p. 504)
- . 06. 15 : 題名公募8万通から『東京オリンピック』"Tokyo Olympiad"に決定 (S. p. 504)
- . 07. 08 : 国内聖火リレー・ロケハン出発(広島-大阪-京都) (C. p. 151)
- . 07. 19 : マラソンコース・ロケハン (C. p. 151)
- . 08. 01-
- 09. 10 : ギリシャでの聖火採火式撮影から東南アジア各国聖火リレー撮影 (C. p. 152/S. p. 505)
- . 09 -
- 10 : 国内聖火リレーをシナリオに基づき撮影。各国選手団到着風景撮影 (C. pp. 152-155/ S. p. 505)
- . 10. 08 : 東宝株式会社と配給委託契約締結 (S. p. 508/A:39.10.12.夕)

東京オリンピック開催期間

- . 10. 10 : 開会式撮影;以後、毎晩ラッシュ見て、絵コンテなどによって翌日の撮影プランの打ち合わせ (C. pp. 155-159)
- . 10. 11-

- . 10. 24 : 各競技撮影 ; 撮影総フィート数約32万2933 (97.858m) (S. p.506)
- . 10. 24 : 閉会式撮影 ; 録音テープ総時間249時間 (S. p.506)
- . 11初旬 : アオイスタジオに編集室と試写室設置 (S. p.506)

1964. 12. 16 : 宣伝用特報 (約80フィート、1分弱) 予告編 (約250フィート、3分弱) 完成試写。前
景気をおおる (S. p.508)

1965. 01. 11 : 第1回オールラッシュ (約18,000フィート) (C. p.159)

- . 01. 20 : 音楽ラッシュ (C. p.159)
- . 01. 26 : 文部省通達 : 小中高生に団体観覧の学校推薦 (S. p.508/A:40.1.28)
- . 02. 09 : ダビング開始 (C. p.159)
- . 02. 28 : 番号試写 (『東京オリンピック』完成) (C. p.159/S. p.508)
- . 03. 01 : 組織委員会にプリント納入 (C. p.159)
- . 03. 05 : スタッフ試写 (C. p.159)
- . 03. 07 : 映画関係者だけで完成試写 (検定試写を兼ねる) (虎ノ門教育会館) (T. p.129)

論争 (*=批判—記録中心で再制作、◎=市川監督・映画界反論、☆=外国の評価)

- . 03. 08 : 完成披露特別試写 (有楽座)
 - * 席上、河野一郎オリンピック担当大臣の「これは記録映画ではない。芸術的すぎる」発言。この酷評談話が全国紙に載り、「芸術か記録か」の論争の火蓋を切る。(T. p.129/A&M:40.3.10/M:40.3.11.夕)
- . 03. 09 : 文部省教育映画等審査分科会で「文部省特選」の内定 (T. p.129)
- . 03. 10 : 両陛下、各皇族の特別試写会 (東京宝塚劇場) (A:40.3.10.夕)
 - * 東宝再編集申し入れ (A:40.3.10.夕)
 - * 河野国務大臣「記録中心のもう1本を作り直す」と神戸で発言 (A:40.3.10.夕)
 - * 与謝野〇〇〇事務総長記者会見 ; 記録重視でもう1本制作と発言 (T. p.129)
 - ◎市川監督談話 ; 人間及びオリンピックの意義を記録した記録映画 (M:40.3.11/ M:40.

3. 11. 夕)

- . 03. 11 : 両氏の発言を受け各紙に試写会の映画評や論評掲載 (T. p.130)
 - * ◎映画の手直し決定 (A&M:40.3.12)
 - ◎市川監督談話 ; この手直しは一連の手直しの一環 (M:40.3.12)
- . 03. 13 : * スポーツ振興国会議員懇談会 ; 記録中心のもう1本の作製を申し入れ (A&M:40.3.14)
- . 03. 15 : 国内最終版完成 (2時間50分 : 15,226フィート) (S. p.507)
- . 03. 16 : * 愛知文部大臣「文部省推薦できない」との通達を出すこと決定。「芸術的ではあるが子どもにわかるかどうか疑問」との見方固まる。(T. p.129/A&M:40.3.16)
 - ◎市川監督談話 ; 河野大臣に編集途中を見てもらったのは残念。愛知文相発言は心外。子どもたちの感受性は高い、などと反論 (T. p.130/A:40.3.17)
- . 03. 17 : * 体協発言 ; 全競技の決勝と日本選手の活躍を入れよと申し入れ (T. p.130/A&M:40.3.18)
 - ◎文部省教育映画等審査分科会「文部省特選」の意向無視と波紋 (A:40.3.18)
 - ◎市川監督談話 ; 第2作は作らないと反論 (T. p.130)

- . 03. 18 : * 00C記録映画委員会 ; 2本目の競技中心の記録映画の制作。国内配給は市川監督
 作。海外版は本編を修正し、約2時間に編集すると決定 (T. pp. 130-131/A:40. 3. 18)
- . 03. 20 : 全国一斉封切り。東宝系260館 ; 新聞各紙、好評を報道 (T. p. 130/A:40. 3. 20/M:40. 3.
 20. 夕)
- . 03. 21 : ☆ソ連共産党機関誌「ブラウダ」激賞 (A&M:40. 3. 21)
 ◎佐藤栄作総理大臣渋谷東宝で鑑賞 ; 「全体としてはよくまとまっている。まずまず
 のでき。ヤマ場はよくとれている。芸術のわからん人には困ったものだ... 云々」発言
 (T. p. 131/A&M:40. 3. 22)
- . 03. 23 : * 河野大臣発言 (衆議院体育振興特別委員会) ; 記録映画として不適當。学童鑑賞に
 は賛成できない。00Cが別にもう1本制作に賛成 (T. p. 131)
- . 03. 24 : * 00C総会大混乱 ; 市川作品を「予告版」とし記録中心の「決定版」を再編集。海外版
 および10C納入分も再編集との意見。組織委員会が自ら制作したものを自己否定するか
 たちになる。(T. p. 131/A:40. 3. 24/M:40. 3. 24. 夕)
 ◎市川監督談話 ; 上映中の作品は組織委員会が正式作品とした。問題が作品そのもの
 の本質から離れ政治的なものになっている。(M:40. 3. 24. 夕)
 ☆第18回カンヌ映画祭正式招待 (T. p. 131/M:40. 3. 25)
- . 03. 25 : ◎日本映画監督協会抗議文 ; 市川監督の人権無視かつ侮辱。別作品に市川監督のフィ
 ルムを使用するのは著作権法違反 (T. p. 131/A&M:40. 3. 25. 夕)
 * 河野大臣発言 (参議院予算委員会) ; 芸術性は別として記録としては不適當。〇〇
 Cがもう1本記録映画を制作することが適切 (T. p. 131)
 ◎参議院予算委員会 (愛知文相、与謝野00C事務総長出席) ; 社会党千葉議員より政治
 介入と追求される。政府干渉に批判高まる (M:40. 3. 26)
- . 03. 27 : 国会スポーツ議員連盟事態収集に動く (T. p. 131)
 * ◎市川監督、河野大臣の私邸を訪問し会談 (T. p. 131/A:40. 3. 28)
 * ◎海外版も市川監督の編集に決定、市川監督記録性を重視して編集すると約束 (T.
 p. 131/A:40. 3. 28)
- . 03. 29 : 河野大臣、00C役員、海外版ラッシュを見てOKを出す。再編集は取りやめ (T. p. 131/M
 :40. 3. 29/A:40. 3. 30/40. 3. 31)
- . 03. 30 : 国会スポーツ議員連盟00Cに要望 ; 公開中の作品は適切なもので、推薦措置が望ましい。
 記録中心の映画もつくり公開すべきである。新映画も市川監督の協力編集のこと。新
 映画は未収録分より各種目平均にする。(T. pp. 131-132)
- . 03. 31 : 00C臨時総会で映画論争に結論 ; 海外版再編集せず、市川監督が編集したラッシュ版を
 手直しする。10C納入分は市川監督の部分的な手直ししたものに記録中心の作品を加えて
 寄贈 (T. p. 132/A:40. 3. 31/M:40. 3. 31. 夕)
- . 04. 05 : 海外版 (英語版2時間10分 ; 1,634フィート) 完成。マレーシア特別試写会に間に合う。
 (T. p. 132/A:40. 4. 5. 夕)
- . 04. 06 : 文部省は文部省教育映画等審査分科会に東宝が自発的に文部省推薦の再申請を取り下
 げたと報告。東宝配給部長談話 ; 「文部省から大臣のカオをつぶすな」と申し入れが
 あった。(T. p. 132/A:40. 4. 7)
- . 04. 08 : ☆海外初公開 ; 日本大使館主催のマレーシア国王、首相招待特別試写会。好評の外電

記事 (A:40. 4. 9)

◎シナリオ作家協会抗議声明文；00Cの反省および作家の権利擁護の抗議 (T. p. 132)

- . 04. 09 : ☆モスクワ映画祭に市川監督招待 (T. p. 132)
- . 04. 14 : カンヌ映画祭に東京オリンピック・メダリスト招待決定 (M:40. 4. 15)
- . 04. 21 : カンヌ映画祭から河野大臣に出席するよう招請状 (M:40. 4. 21)
- . 05. 19 : ☆カンヌ映画祭試写会好評 (A:40. 5. 20)
- . 05. 20⁻
 - 25 : ☆カンヌ映画祭で絶賛される；正式招待作品であれば当然グランプリ対象になる作品であると。特別賞受賞；国際映画批評家賞、青少年向最優秀作品賞 (T. p. 132/M:40. 5. 20/A:40. 5. 26. 夕/A:40. 5. 29)
- . 06. 03 : ☆アメリカ初試写会（ニューヨーク近代美術館）；激賞。契約成立。「どうしてこの映画に日本国内でクレームが付いたかわからない」との報道 (A:40. 6. 3)
- . 10. 07 : ☆イギリス、ロンドン公開。大人気 (A:40. 10. 20)

保存用記録編

- 1965. 03. 31 : 00C臨時総会、市川版以外にもう1本記録用制作決定済み(A:40. 3. 31)
 - . 06. 05 : 保存映画事務局案まとまる；6,7編、10時間の長尺 (A:40. 6. 6)
 - . 10. 07 : もう1本のオリンピック記録映画『世紀の感動』（東京オリンピック映画協会制作150分）完成。そのほかに陸上、水上、球技、格闘、その他5編の記録用映画も作成。未公開 (A:40. 10. 7)
 - . 10. 08 : 試写会。国会スポーツ議員連盟『世紀の感動』の公開促進委員決定 (A:40. 10. 9)
- 1966. 03. 11 : 精算法人東京オリンピック組織委員会『世紀の感動』一般公開発表 (A:41. 3. 12/A:41. 3. 16)
 - . 04. 01 : 一般公開本決まり。調印式 (A:41. 4. 2)
 - . 05. 18⁻
 - 27 : 『世紀の感動』公開（155分） (A:41. 4. 2)
 - . 05. 18 : 新聞映画評；「意義薄い再制作」と酷評 (A:41. 5. 18)

<* 本付属資料は、オリンピック東京大会組織委員会公式報告書(1966)(S)、東宝株式会社配給白書(1965)(T)、キネマ旬報(1965)(C)、朝日新聞(1964-1966)(A)、毎日新聞(1964-1965)(M)に基づいて本が作成した。出典は略号で示した。凡例：A:39. 3. 8. 夕=朝日新聞：昭和39年3月8日夕刊。>